

中国少数民族の装いにみる 伝統とファッション

どんな内容？

参加

無料

服を着ることは、わたしたちにとってどのような意味を持つのだろうか。わたしたちにとって、服は毎日着替え、シーズン毎に新しく買い、今日は何を着ようかと自由に選べるもの、個性を表すものと理解されるのではないだろうか。

そしてその対極にあるとイメージされるのが、世界各地に今でも受け継がれている伝統的な衣装あるいは国民・民族的アイデンティティを表象する衣装ではないだろうか。

しかし本当に、現代のわたしたちの装いと、異文化の伝統的な装いのあいだには大きな隔たりがあるのだろうか。

今回は中国雲南省のミャオ族の伝統的な装いがいかに変化してきたのか、そしてそれがどのように伝統とファッションを往来しているのかを紹介し、文化人類学的な視点から人にとっての装うことの意味を考える。

日時

12/21

木

17時10分開始
18時50分終了

司会

高馬 京子

(明治大学情報コミュニケーション学部教授)

場所

グローバルフロント3階4031教室

Zoomによる同時中継

※Zoom情報は下記参加登録者宛に案内します。

講師

宮脇 千絵

(南山大学人類学研究所・准教授)

参加登録

下記URLから登録

<https://forms.office.com/r/dmXGfR25JT>

右のQRコードからも登録可能です。



12/15
締切



【講師略歴】

大学3年生の時に初めて雲南省を訪れて以来、そこに暮らす人びとの装いに興味をもってきました。単著に『装いの民族誌－中国雲南省モンの「民族衣装」をめぐる実践』（2017年、風響社）、共編著に『ファッションスタディーズ－私と社会と衣服の関係』（2022年、フィルムアート社）。